



RUNE  
Roots of Kawaii  
内藤ルネ  
Since 1953  
ライセンスガイド

## “Roots of Kawaii” 内藤ルネとは

### 生活の中にファンタジックな夢を

イラストレーター、人形作家、デザイナー、エッセイストなど、幅広い分野で活躍したマルチクリエイター。

1950年～1960年代にかけて圧倒的な人気を博したファッション誌

『ジュニアそれいゆ』(ひまわり社)の表紙と挿絵を担当し大ブレイク。

ヴィヴィッドに彩られたキッシュな少女画で古い美少女観をひっくり返し、

動物から野菜、フルーツ、そして捨てられていた家具まで、

それまで誰もが見過ごしていた“カワイイの芽”を

イラスト以外にも家具や食器、ルームアクセサリー等あらゆるものの中に

次々と見出し、命を吹き込み、人々に発信し続けました。

彼の残した作品は、1万点以上に及び、「カワイイ文化の祖」と言われています。



“14～15歳の少女から70を越した少女まで、  
いつまでも心にみずみずしさを残した女性のために”

『薔薇の小部屋』夏号 発刊の言葉にかえて 1978年より

“口マンティック この言葉を私は「夢見ること」と解したい。(中略)  
私の描く夢が少しでも、あなたの明日の生活の生きる喜びとうるおいと、  
支えになってくれることを深く願い、夢をいつまでも忘れないでとの心をこめて…。”

『私の部屋』1992年119号 冒頭の言葉より

### 1959-1960年にカリスマ誌

#### 『ジュニアそれいゆ』の表紙を担当し大ブレイク

ルネがイラストレーターとして『ジュニアそれいゆ』の表紙を担当したのは1959年～1960年。この頃の日本は戦後からの苦しい生活を乗り越え、めまぐるしい発展を遂げてきた高度経済成長期の真っ只中でした。

戦後からわずか15年後、「女性は早く妻となり、子供を産むことが良い」と言われていた時代は終わり、少女たちは10代を「もっと楽しみたい!」「もっと輝きたい!」と願うように。この時代の流れとともに現れたのがルネの美少女画でした。顔立ち、ヘアスタイルや髪色、ファッション、そして表情、ポジティブで活発なこの美少女は登場するやいないや、すべての少女たちを魅了し、瞬く間に大ブレイクしました。



『ジュニアそれいゆ』第33号表紙 1960年



『ジュニアそれいゆ』第35号表紙 1960年

“アフォルメした大きな目”、“小顔にヒヨロ長いプロポーション”が特徴的なこの少女画は、現代のコミック少女画の原点とも言われています。

### 世代を超えて愛され続ける、内藤ルネの魅力

内藤ルネの生み出した作品は、子どもから70を越した女性まで世代を問わず、愛されています。

そして「Kawaii」が世界共通語となった今、Kawaii文化の生みの親「内藤ルネ」の作品は脚光を浴び、日本だけでなく海外の女性たちまでもとりこにしています。内藤ルネは今、第三次ブームを迎えていました。

#### 「カワイイ文化の生みの親」

立教大学教授 香山リカさん

日本の少女たちに自分の価値が「美しく、じとやか」ではなく、「かわいく、元気」であることに気づかせた。現代の日本を特微づけると言ってよい「カワイイ文化」の原形がここにある。  
(中略)「カワイイ文化」の生みの親ともいえるルネ氏は、謙虚で善良で平等でそして自由で、まさに「カワイイ」がそのまま人格化されたような人だった。

立教大学教授 香山リカさん  
朝日新聞2007年11月8日朝刊「カワイイ文化 生みの親」より

#### 「なぜ今、若い世代にこれほどルネが支持されているのか?」

弥生美術館学芸員 中村圭子さん

ルネの作品には、見る者の心を包み込むような暖かさとユーモラスな感覚があり、ホッとさせられる。

弥生美術館学芸員 中村圭子さん  
『内藤ルネ 少女たちのカリスマ・アーティスト』  
2002年河出書房新社刊より

### 現在、未来へ受け継がれる 内藤ルネの「Kawaii」DNA

2015年は伊勢丹新宿店を皮切りに全国の三越伊勢丹グループ各店にて巡回展のスタート、カルチャー誌「Violetta」の表紙および、特集記事の掲載、Peach Aviationとのコラボレーションによるラッピング機の就航など、話題の多い年となりました。さらには多くのファッションデザイナーを輩出する文化学園大学ではルネに影響を受けた有志学生たちが、オマージュ作品として「ルネガール」の復刻衣装を制作致しました。



伊勢丹新宿店では3週間にわたり全13面のウィンドウをルネがジャック。国内外の女性たちの話題を集めました。



ルネガールが表紙を飾ったカルチャー誌「Violetta」。「日本の可愛い文化」と題し、30ページ以上に及ぶ特集が組まれました。



文化学園大学の有志学生たちが手掛けたルネガール復刻衣装。



人気のエアラインPeach Aviationとのコラボによるラッピング機。全3デザインで就航し、大きな話題を呼びました。

# 内藤ルネ年表

<p><b>●第一回NHK紅白歌合戦</b></p> <p><b>1932</b> 愛知県岡崎市に生まれる</p> <p><b>1944</b> 中原淳一氏の絵に出会い、衝撃を受ける(10歳)</p> <p><b>1948</b> 雑誌『ひまわり』『それいゆ』との出会い(16歳) 蒲郡の紳士服店の住み込みとして働き始める。書店で雑誌『ひまわり』に再会し、改めてその美の世界に衝撃を受ける。毎日、絵を描いて、社主の中原淳一氏に手紙を添えて送り続ける。</p> <p><b>●東京タワー完成</b></p> <p><b>1958</b> 少女雑誌でも活動開始 『少女』(光文社)、『少女クラブ』(講談社)、『りぼん』(集英社)、『少女ブック』(集英社)で口絵や付録の仕事をする。</p> <p><b>1959</b> 『ジュニアそれいゆ』の表紙を担当 ルネ初の単行本『こんなちは! マドモアゼル』(ひまわり社)刊行。 古書市場で高値が付き、2004年河出書房新社から45年ぶりに復刻される。 ルネのショップ 池袋西武百貨店新館1階に『それいゆの店』が開店。 紙パックが大人気アイテムになる。 三愛西銀座店にルネコーナー、レターセット、スカーフ、ハンカチなどがヒット。</p> <p><b>1960</b> 『ジュニアそれいゆ』廃刊、フリーとして女性雑誌での活動を開始 『服装』(婦人生活社)にファッションや人形などを発表するようになり。 後に映画やインテリアを取り上げた連載を開始する。『なかよし』(講談社)の付録を手掛ける。 『少女サンデー』(小学館)にファッション提案を発表する。</p> <p><b>●東京オリンピック開催</b></p> <p><b>●海外旅行の自由化</b></p> <p><b>1964</b> 初めてヨーロッパを旅行 パリで古いビスクドールと出会う。『服装』(婦人生活社)に、インテリアなどのエッセイを執筆。</p> <p><b>1965</b> 白い部屋と赤い部屋 上北沢の米軍ハウス風の家に引っ越す。自分の意思で住んだ最初の家で、 白い部屋と赤い部屋を作り『服装』などの婦人雑誌の撮影も自宅で行われた。 『装苑』(文化出版社)、『美しい十代』(学習研究社)、『新婦人』(文化実業社)、 『non-no』(集英社)、『anan』(マガジンハウス)の仕事を手がける。</p> <p><b>1967</b> 「ルネハウス」を開設 東急百貨店の本店開業とともに1階に小屋「ルネハウス」を開設。 ファッション雑貨やファンシーグッズを販売。</p>	 <p>●日本万国博覧会開催</p> <p><b>1970</b> 1年間のヨーロッパ旅行 本間真夫氏とともにパリ、ロンドンなどを旅行する。『服装』に「世界感覚旅行」を連載する。</p> <p><b>1971</b> ルネパンダの誕生 ロンドン動物園で見たパンダの愛らしさに感激して、デフォルメしてパンダキャラクターを作る。 翌年、上野動物園で初めてパンダが公開され一大ブームになる。</p> <p><b>1972</b> アクセサリーシールが大ブーム キャラクターシリーズやフラワー柄等のミドリのステンシールが大ヒットする。</p> <p><b>1973</b> 薔薇色雑貨店『ルネハウス』オープン ルネの宝物を売るロマンティックなおもちゃ箱みたいな店だった。</p> <p><b>1978</b> 『薔薇の小部屋』(第二書房)を創刊 ルネと本間真夫氏が中心になり、森茉莉、美輪明宏、田辺聖子など豪華執筆陣が集まった。</p> <p><b>1984</b> 『薔薇族』(第二書房)の表紙を担当</p> <p><b>2001</b> 内藤ルネ人形美術館オープン 修善寺に移住し「内藤ルネ人形美術館」を開館</p> <p><b>2002</b> 弥生美術館にて初個展『ルネ回顧展』 弥生美術館で行った回顧展は開館以来の入場者数を記録し、第二次ブームに。</p> <p><b>2005</b> 「内藤ルネ初公開コレクション展」開催 弥生美術館で「内藤ルネ初公開コレクション展」開催し好評を得る。 『内藤ルネ自伝 一すべてを失くして一』(小学館クリエイティブ)刊行。</p> <p><b>2007</b> 急性心不全のため永眠(享年74歳) 第2次ブームの中で惜しまれつつ亡くなる。 「内藤ルネ展 "ロマンティック" よ、永遠に」全国巡回展、リアルタイムを知らない数多くの若い世代が訪れた。</p> <p><b>2012</b> 「もうひとつの内藤ルネ展」開催 渋谷PARCOミュージアムにて「もうひとつの内藤ルネ展」を開催。大盛況となる。</p> <p><b>2013</b> 渋谷ヒカリエにて「内藤ルネ デビュー60周年展」開催 「Peach」「Girls Award」とのコラボによるラッピング機が就航 『Girls Award』に出演</p> <p><b>2014</b> 渋谷Bunkamuraギャラリー「内藤ルネ展 ~時代と少女たち~」開催</p> <p><b>2015</b> 女性誌『Violetta』の表紙にルネガールが登場 『ジュニアそれいゆ』以来55年ぶりにルネガールが雑誌の表紙を飾り話題に。 文化学園にて「内藤ルネ展」開催。 ルネをオマージュした『内藤ルネ デザインアワード』を同時開催。</p> <p><b>Peach×Violetta×ルネのラッピング機が就航</b> トリプルコラボにより3デザインのルネガールがラッピング機に登場。</p> <p><b>Roots of Kawaii 内藤ルネ展 ~夢をあきらめないで~』開催</b> 伊勢丹新宿店を皮切りに全国の三越伊勢丹グループ各店にて巡回展を開始。</p> <p><b>2016</b> ジェイアール京都伊勢丹、新潟伊勢丹、広島三越などで巡回展を開催</p>	     
--	---	--

協力: 双葉社『Violetta』



先駆者としての内藤ルネ

## Kawaiiはすべてルネから始まった

マルチクリエイターとして活躍した内藤ルネはイラスト、ファンシーグッズ、ファッショントップス、キッチン&インテリアなど、幅広い分野で「はじめて」にチャレンジし続け、ガールズポップカルチャーという「普通の女の子の文化」を確立したことでも知られています。



### ルネガールは現在のコミック少女画の原点

ルネの美少女画はこれまでの「憂いを帯びた表情の美しい女性」=美少女という概念を根底からひっくり返してしまうものでした。特にキラキラと輝く大きな瞳、長い手足、茶髪や金髪などの自由な髪色など、ルネガールは現代のコミック少女画の原点であるとも言われています。



『ジュニアの日記』表紙絵  
1960



「可愛い」という言葉、昔はネガティブな意味だった!?

ルネがデビューした1950年代、「可愛い」という言葉は、“幼稚な”“ちっぽけな”という少しねガティブな意味で使われていました。それを可憐でキュートなイメージという意味合いを含めて、ルネがはじめてPrettyの同義語として使ったことから、「可愛い」はポジティブな意味へとニュアンスを変え、今の「Kawaii」として根付きました。



### Kawaiiショッパーの原点もルネ

1960年代の少女雑誌で可愛いデザインの紙袋が付録として大人気に。ルネは少女向けに数多くの紙バッグを手掛けました。まだショッパーなどなかった時代、少女たちのあいだでは紙バッグを小脇に抱えて歩くことがおしゃれとして考えられていました。

### パンダをはじめてイラスト&キャラクター化

1972年に上野動物園（ランラン、カンカン）でパンダが公開されたことで大ブームになりました。当初ルネは、本来白であるパンダのしっぽを黒く描いていました。他社から多くのパンダグッズが商品化されますが、ルネパンダを真似たため、パンダグッズのほとんどが黒いしっぽのものでした。



「パンダ好きとして知られる黒柳徹子さんに  
「日本だけのへんなパンダって、  
ルネさんが犯人だったのね」  
といわれたりしました。」

内藤ルネ自伝「すべてを失くして」より

### 少女雑誌の表紙にボーイフレンドを起用

今の時代では当たり前のように思えるボーイフレンドという存在。「男女共学」という新しい時代の幕開けと共に、ルネはこれまで「いたへならない存在」とされていたボーイフレンドをイキイキと描きました。『ジュニアそれいゆ』の表紙絵や誌面での挿絵にも積極的にカップルを描き、「ボーイフレンド」は瞬く間に少女たちの憧れ的となりました。



### ファンシーグッズのはじまり

子どもから若い女性たちまで大人気の「ファンシーグッズ」もルネが元祖と言われています。1960年代以降、イラストレーターとしてだけでなく、グッズデザイナーにまで活動の幅を広げ、ルネパンダ、ビリケン人形をはじめとする陶器類、スカーフやステーショナリーなどなど、数々の商品を手掛け、次々とヒットを生み出しました。これが「ファンシーグッズのはじまり」であり、ルネがこの文化を確立させたと言われています。

### 1970年代に大ヒット!

文具メーカー(株)ミドリから発売された「コレクションシール アクセサリーシール」。内藤ルネは花、フルーツ、動物などさまざまなモチーフをデザイン。どの家庭でも冷蔵庫や机にはこのシールが貼られていたというほどのブームとなりました。



アクセサリーシール



### ルネが付録を手掛けると、雑誌の売り上げが倍増!

1960年ごろから学年誌や少女誌の付録を手掛けるようになったルネ。アイデアに富んだこれらの付録が話題となり、『りぼん』『なかよし』『女学生の友』など数多くの雑誌の付録を手掛け、各誌が「ルネ先生の〇〇」とうたうだけで、雑誌の売り上げが倍増しました。



『私の部屋』No.36 1978年

### 捨てられていた医療戸棚を飾り棚に

捨てられていた医療戸棚(ケビント)を見つけたルネ。家に持ち帰り、修理して白く塗り「真っ白な部屋に合う飾り棚」として雑誌『服装』で発表(1964年)して大ヒット。白い家具という概念がなかった当時の日本のインテリアを大きく変えました。

### 最新ファッションやおしゃれのヒントを提案

1956年から『ジュニアそれいゆ』の誌面でフェアリィ・メモと題した連載を担当。「サンローラン」や「シャ넬」など、ハイブランドのコレクションを取材し、イラストでいち早く紹介し、ここからルネ独自の視点で多くのファッショントレンドが発信されました。



『ジュニアそれいゆ』第21号 1958年

「思いがけないものが、  
こんなに素敵に変身する！  
というのが醍醐味なんです」

内藤ルネ自伝「すべてを失くして」より

# 内藤ルネ プロパティ紹介

## ルネガール

内藤ルネは元気でとぎりファッショナブルな少女から憂いを帯びた大人の女性まで、生涯を通じてさまざまな女性を描きました。

### ◆ジュニアそれいゆ 表紙絵

ルネは1959年～1960年にかけて少女たちのカリスマ的な存在であった雑誌『ジュニアそれいゆ』の表紙を担当。大きくデフォルメされた目、長い首、これまでとはまったく異なる美少女を描き、大ブレイクしました。ルネガールの中でも代表作といえる少女たちです。



### ◆モードガール

イラストレーターとして1953年にデビューして以来、ルネはさまざまな少女を描きました。フランス映画や海外のファッション誌を好んだルネは当時のトレンドを取り込みました。小物使いまでにこだわったファッショニ性の高さもルネガールの魅力のひとつです。



## 女の子

ルネガールより少し年下の女の子イラスト。おしゃまな女の子から、ドリーミーな可愛さを持つ女の子まで、髪色、スタイル、目や口の大きさがそれぞれ異なり、バリエーションに富んでいます。



## 女性

1980年代以降は叙情的大人の女性画も多く描くようになりました。『ジュニアそれいゆ』での快活で明るいイメージとは異なる世界観も表現しました。



## ルネキッズ

1960年代に『なかよし』『りぼん』など多くの付録を担当。学年誌向けとして幼い子どものイラストも多数描いています。



## ゴシック&ロリータ

今でこそひとつのジャンルとして確立された「ゴシック&ロリータ」。ルネは時代が認める前の1960年代から「ゴシック」、「ロリータ」の世界観を独自の視点で描いていました。



## ルネパンダ

ルネの代表作ともいえるキャラクター「ルネパンダ」。1971年にロンドンの動物園で初めて見たパンダの可愛らしさに感激し、帰国後にデザイン化。翌年に中国から初めてパンダのランラン、カンカンが上野動物園で公開されたこともあり、一大ブームとなりました。ルネパンダは貯金箱、置物などの陶器類をはじめとし、マグカップ、ハンカチ、タオルなどなど、さまざまなアイテムで商品化され、いずれもヒット商品に。制作した時代とともに表情やしぐさが変化しているのも特徴的です。



## フラワーシリーズ

ルネガールのイラストにはデイジーやアネモネ、ひまわりなど「花」が多数登場します。ルネは胡蝶蘭やバラなどの華美な花よりも野に咲く可憐な花を好みイラスト化しました。フラワーシリーズは、大ヒット商品となった「アクセサリーシール」や、キッチン&インテリア系の食器などさまざまなアイテムに採用され、次々と「Kawaii」アイテムを生み出しました。花、野菜、フルーツをいち早くモチーフ化、図案化し、クリエイティブしたのもルネです。



## フルーツ & ベジタブルシリーズ

ある日、フルーツや野菜が可愛いモチーフになることを発見したルネ。「西洋では昔からトマトのことを愛のリンゴと呼んでいます。LOVEという言葉がぴったり。」「あるとき冷蔵庫を開けたら、一つだけあったトマトがとてもきれいで」これらの言葉からもルネのファンタジックな感性を感じることができます。ルネの手掛けたフルーツや野菜のモチーフはどれも愛に溢れたものばかりです。



## アニマルシリーズ

ネコ、イヌ、コアラ、ウサギなどなど、動物たちもルネの手にかかるべ可愛らしく、コミカルに変身しました。弊社のロゴとしても起用されているクロネコは「マニフィック」という名前で、ルネ自身が飼っていたミルクの大好きな子ネコがモデルになっています。



## シャルマントリオシリーズ

パリのおまわりさん、バッキンガムの近衛兵、フランスの水兵さんのトリオに、17世紀の海賊キャプテン・キッドを加えたシリーズが「シャルマントリオシリーズ」。超ロングセラーの人気キャラクターで、パリやロンドンでコピー商品が出回ったというエピソードも。



## フェアリーランドシリーズ

伝説やおとぎ話の住人を集めたシリーズ。みんなに可愛がってもらいたい、幸せになってもらいたいという思いから制作されました。



## キャラクターズ

「JON AND AMY」、「WANPAKU」シリーズなどを中心につぶらでちいさな黒目が特徴的なキャラクターも多数。ほのぼのとする可愛らしさです。



## 薔薇族

1980年代から1990年代にかけて、ゲイ雑誌「薔薇族」の表紙絵や挿絵を担当。明るく健康的な青年を描きました。



## キッチン&インテリアデザイナー、人形作家としても活躍

ルネは大切なシャンパングラスが割れてしまったときに陶器や食器などの壊れるものの美しさに気づき、以降(1960年代後半)からダイニング用品やインテリア小物など多くデザインしました。丸いフォルムが特徴的なポットやカップ、ハイヒールやビーナツをモチーフにした小物入れなど、日々の生活を可愛らしく彩りました。  
また、人形作家としても活躍を見せたルネ。『それいゆ』や『ジュニアそれいゆ』での発表をきっかけに1960年代以降は自身が連載を持つ『私の部屋』『服装』で多くの人形作りを提案しています。



# 内藤ルネ プロモーション実績

## ● 伊勢丹新宿店『Roots of Kawaii 内藤ルネ ~過去・現在、そして未来へ~』

2015年10月21日～10月27日

世界のファッションミュージアムとして知られる伊勢丹新宿店にて、『Roots of Kawaii 内藤ルネ ~過去・現在、そして未来へ~』を開催いたしました。展覧会『Roots of Kawaii 内藤ルネ展～夢をあきらめないで～』の開催をはじめ、本館全ウィンドウにルネのイラストを起用、各フロアによるコラボ展開など、これまでにない規模のものとなり、ルネ色に染まった1週間でした。



オープニングセレモニーにはコシノジュンコさん、桐谷美玲さんが出席。  
多くのメディアが集まりました。



本館のウィンドウディスプレイは3週間にわたり全13面ルネガールがジャック。  
ウィンドウごとに異なるイラストでルネの世界観を表現し、大いに注目を集めました。



展覧会にはティーンからオールドミセスまで幅広い世代が来場。



本館1階の正面通路にもルネのイラストがディスプレイ。



夜のウィンドウは幻想的な雰囲気が印象的でした。



本館1階のザ・ステージでの展開も大きな話題に。



タカノフルーツパーカーとのコラボによる「ルネパーカー」。



本館各フロアとのコラボも注目を集めました。



限定ショップ「Marché Runé」では多数のルネグッズを販売。



期間中は伊勢丹のショッパーもルネガールに。



地下鉄のデジタルサイネージにもルネガール&パンダが登場。

## ● 内藤ルネデビュー60周年展

2013年7月10日～22日 渋谷Hikarie8F『Cube1.2.3』

渋谷ヒカリエ8F『Cube1.2.3』にて『内藤ルネデビュー60周年展～カワイイはみんなルネからはじまつた～』を開催。会期13日間で入場者数、メディア数、売り上げ共にヒカリエの展覧会で新記録となりました。



「Kawaii」をコンセプトに作品を展示。若い世代の女性たちからも注目目的でした。

## ● 『ルーツ of Kawaii 内藤ルネ展 ～時代と少女たち～』

2014年7月30日～8月6日 BunkamuraGallery

25周年を迎えたBunkamura Galleryにて展覧会を開催。良質な文化を創造し提供する東急文化村での開催は多方面から多くの賛辞を頂戴いたしました。



「時代と少女たち」というテーマに沿った作品を中心とした展示内容。『ジュニアそれいゆ』の原本も多数展示されました。



## ● 文化学園「内藤ルネ展」

2015年4月13日～24日 文化学園

学校法人 文化学園(文化学園大学、文化服装学院など)内、ファッションリソースセンターで行なわれた「ルーツ of Kawaii」内藤ルネ展。約8,000名の生徒に向けた特別カリキュラムとして開催されました。



合同記者会見のもう。中央左からテリー伊藤氏、ビーチ井上CEO、道端アンジェリカさん。

2013年9月28日 代々木第一体育館で開催された「Girls Award」では、CAの皆さんと共に登場。



2013年7月30日からはトリプルコラボとして、CAスタイルのルネガールが登場し、大空へ羽ばたきました。



内藤ルネをリアルタイムで知らない学生たちが作品を興味深く見ていました姿が印象的でした。  
展覧会では同時に学生たちからデザインを募る「内藤ルネ デザインアワード」も開催。ルネの世界観に魅了された学生たちから多くのエントリーがあり、受賞者の作品はその後、商品化もされました。

● Peach Aviationコラボ機就航

2013年7月～

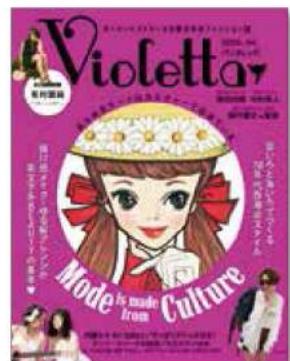
Cute&Coolをコンセプトにした「Peach Aviation」にてルネガールのラッピング機が国内外に就航し、大きな話題を集めています。



● 55年ぶりにルネガールが女性誌のカバーガールに

2015年3月～10月

双葉社より発行された女性誌『Violetta』の表紙に毎号でルネガールが登場。1960年に『ジュニアそれいゆ』の表紙を飾り、大ブレイクしたルネガール。55年ぶりに表紙を飾ったことも大きな話題となりました。



● LINEスタンプ好評発売中♪

2012年12月20日～

かわいいルネパンダとルネガールが、愛くるしいポーズや表情で40種のスタンプとして登場♪ 幅広い世代の女性たちから人気を集めています。



● 「美少女の美術史」出展

2014年7月12日～9月7日

日本の美少女の美術史をたどる展覧会に招聘を受け、内藤ルネの作品の一部が展示されました。青森美術館の会期に続き、静岡、島根の各県立美術館へも巡回いたしました。



● Tokyo Crazy Kawaii Paris

2013年9月20日～22日



パリにて開催された「Cool JAPAN」推進イベント「Tokyo Crazy Kawaii Paris」に招聘されました。

## 事業展開

60余年の歴史を持ち、「Roots of Kawaii」と称される『内藤ルネ』の時代も世代も超えた魅力。女性を中心とした多くの方々にさまざまなアイテム、イベント等を通じて国内外へ“Kawaii”ライフスタイルを提案いたします。

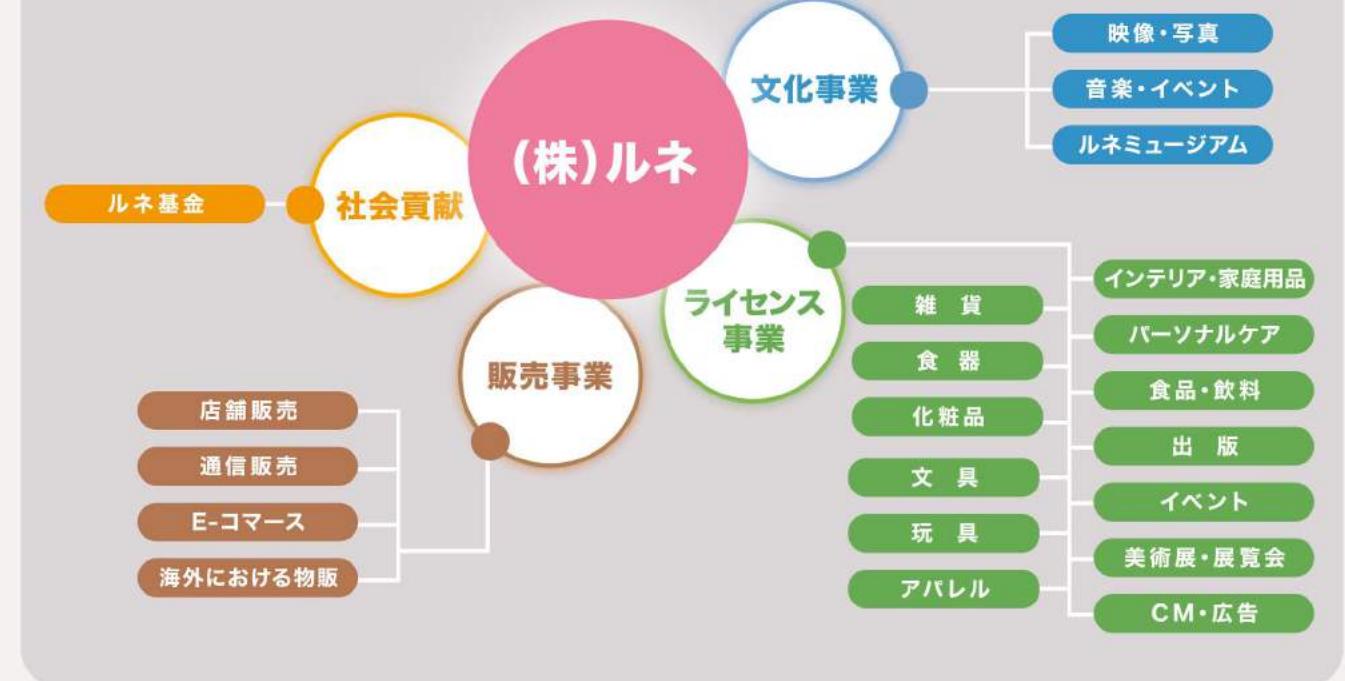
● 商品化展開カテゴリー

文具、玩具、アパレル、雑貨、インテリア・家庭用品、食器、化粧品、パーソナルケア、食品・飲料、出版、イベント、その他

● ライセンス使用料

ライセンス使用料に関しては、都度ご相談させていただきます。

● 事業モデル



● Company Profile

商 号：株式会社 ルネ RUNE Co.,Ltd.

所在地：東京都渋谷区神宮前6-25-2

設 立：2012年9月3日

代 表：代表取締役 川元 賢司

[お問い合わせ先] 株式会社 ルネ

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-25-2 エクセル原宿グレイスコート1003

TEL 03-5766-8618 FAX 03-5766-8616 E-mail [rune-info@jap.co.jp](mailto:rune-info@jap.co.jp)

<http://www.naitou-rune.jp/>

RUNE